

臨床実習 I		実習	教授 川崎一朗 准教授 西川 彰 准教授 牛島詳力 講師 伊藤 新 講師 木下美聡	
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12381301	

1. 授業のねらい・概要

臨床実習 I は、大学付属の臨床実習施設において、担当教員の指示の下、これまでに修得した知識を生かし、質の高い治療を提供するために必要な各疾患の評価法などについての過程を経験する。また、選手との接し方を学び、コミュニケーションの重要性や、医療人としての自覚・モチベーションを高めることを目的とする。

2. 授業の進め方

担当教員と行動を共にしながら参加観察し、術者の視点から患者の状態について考察する。事前にガイダンスを行い、臨床実習カルテの書き方や、医療機器の種類、効果等について説明する。また、その日に来院した患者の主訴や、受傷機転、治療方針、予後について意見交換を行い、レポート作成し理解を深める。

3. 授業計画

1. ガイダンス	16. 中間報告
2. 臨床実習① (服装, 容姿, 態度, マナー, 話し方)	17. 臨床実習⑮ (徒手筋力検査: 肩部)
3. 臨床実習② (業務範囲と医療機関との連携, 問診法)	18. 臨床実習⑯ (徒手筋力検査: 肘部・手部)
4. 臨床実習③ (施術録の記入法)	19. 臨床実習⑰ (徒手筋力検査: 体幹部)
5. 臨床実習④ (視診)	20. 臨床実習⑱ (徒手筋力検査: 股部)
6. 臨床実習⑤ (触診解剖: 肩関節, 上腕部)	21. 臨床実習⑲ (徒手筋力検査: 膝部・足部)
7. 臨床実習⑥ (触診解剖: 肘関節部, 手関節部)	22. 臨床実習⑳ (物理療法機器の操作法: 温熱療法)
8. 臨床実習⑦ (触診解剖: 頸部, 胸部, 腰部)	23. 臨床実習㉑ (物理療法機器の操作法: 局所浴療法)
9. 臨床実習⑧ (触診解剖: 股関節部, 大腿部)	24. 臨床実習㉒ (物理療法機器の操作法: 電気療法)
10. 臨床実習⑨ (触診解剖: 膝関節部)	25. 臨床実習㉓ (物理療法機器: 適応疾患と禁忌)
11. 臨床実習⑩ (触診解剖: 下腿部, 足関節, 足部)	26. 臨床実習㉔ (応急処置: RICE 処置)
12. 臨床実習⑪ (関節可動域測定: 肩関節)	27. 臨床実習㉕ (応急処置: 固定法 上肢)
13. 臨床実習⑫ (関節可動域測定: 肘関節・手関節)	28. 臨床実習㉖ (応急処置: 固定法 体幹)
14. 臨床実習⑬ (関節可動域測定: 体幹)	29. 臨床実習㉗ (応急処置: 固定法 下肢)
15. 臨床実習⑭ (関節可動域測定: 股関節)	30. まとめと復習

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の実習内容を確認し、レポートにまとめること。また、前回の実習で理解できない内容に関しては、次回の実習まで、文献を用いて調査すること (1 時間程度)。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

レポートは実習を終えた日から 3 日以内に提出すること。担当教員が添削し次回の実習日までに返却する。

6. 授業における学修の到達目標

担当教員の指導の下、一連の評価から治療に至る過程を把握し経験することで理解できるようになる (見学-模倣-実施)。

7. 成績評価の方法・基準

実習内容 (50%), 実習記録・レポート等 (50%) の臨床実習により、総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて授業前後に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①各自の課題を明確にした上で主体的に行う実習であるため、目的意識を持って取り組むこと。
- ②諸事情により臨床実習を欠席する場合は、事前に必ず担当教員に連絡すること。
- ③感染症を未然に予防のためにも、体調管理は徹底すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。